

山口県の 気候の 将来予測

気候変動による影響は世界中でも観測されており、今後さらに深刻な影響が予測されています。IPCC※1が作成した気候変動に関する「第6次評価報告書」では5つの予測シナリオが用いられています。また気象庁は、IPCCの「第5次評価報告書」を基に20世紀末と比較した21世紀末の将来予測である**2℃上昇シナリオ**、**4℃上昇シナリオ**を示しています。

2℃上昇シナリオ

気候変動に対する対策を取り、**パリ協定**※2で掲げられた目標が達成された場合で、第6次評価報告書のSSP1-2.6シナリオに準じた予測です。

4℃上昇シナリオ

気候変動に対する追加的な対策を行わなかった場合で、第6次評価報告書のSSP5-8.5シナリオに準じた予測です。

※1 IPCC

世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)によって設立された政府間組織です。

※2 パリ協定

2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みで、世界共通の長期的目標を掲げています。

※出典:資源エネルギー庁ウェブサイトをもとに作成



2つのシナリオによる将来予測を交えた 今後の**気温**と**海面水温**について



気温の上昇 これまでの変化

気温が上昇すると暑さに関連する病気が増加し、屋外の活動が困難になります。また、気温が高い状態が長期化すると気候のパターンが変化し、自然界のバランスが崩れてしまいます。山口県もその影響下にあります。(詳細はP01)

なお、2024年、山口市の猛暑日(日最高気温が35℃以上)は47日に達し過去最高を記録しました。

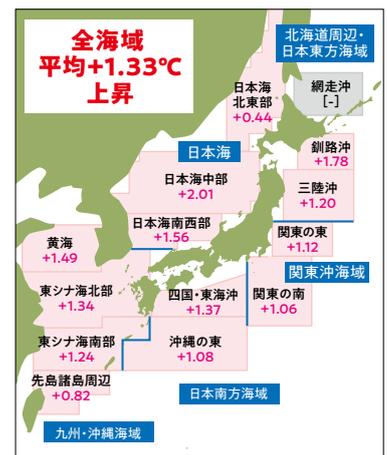
	20世紀末	21世紀末	
		2℃上昇シナリオ	4℃上昇シナリオ
年間猛暑日 日数	1日	約4日	約24日
年間熱帯夜 日数	7日	約20日	約63日

海面水温の上昇 これまでの変化

山口県近海だけでなく、全海域においても海水温の上昇が観測されています。海水温が上昇すると、サンゴ礁・藻場が衰退するほか、暖水性魚介類が増加し、生物生息域が変化するため生態系や水産業にも影響を及ぼします。

日本近海の 海域平均海面水温

九州・山口県周辺の海域における、2024年までの100年間における年平均海面水温の上昇率は、東シナ海北部が+1.34℃、東シナ海南部が+1.24℃となっています。



将来予測 21世紀末 ※20世紀末の観測値と比較

山口県の年平均気温

2℃上昇シナリオ → 約1.3℃上昇

4℃上昇シナリオ → 約4.2℃上昇

※出典:下関地方気象台・福岡管区気象台「山口県の気候変動」を編集

将来予測 21世紀末 ※20世紀末の観測値と比較

東シナ海北部における年平均海面水温

2℃上昇シナリオ → 約1.23℃上昇

4℃上昇シナリオ → 約3.47℃上昇

※出典:文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2025」を編集